

どうしたらいい!?

ザリガニさん大丈夫!?

社会福祉法人芽豆羅の里 芽豆羅保育園（大分県宇佐市）[5歳児]

<事前の様子> 4、5歳児でザリガニを取りに行き、園で飼えるのは4匹と考えて持ち帰る。幼児クラスと乳児クラスで分けて飼育を始める。ダンゴムシを飼った経験があり、凶鑑で餌などわかるので飼えると思っていたが、幼児クラスのザリガニは死んでしまう。乳児クラスでは生きていとわかり喜ぶ。乳児クラスは触らないからよかったと考えたり、小学校のザリガニも気温が高くて死んでしまったという情報を得たりして、残った1匹のザリガニを飼うために飼育方法の情報を集めて、全園児が観察するようになる。

	子どもの様子	援助(♡) 読み取り(※)
疑問を考える・調べる 命を感じる	<p>・ザリガニの話題が行き交う。</p> <p>〔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニは死んだらなぜ赤くなるの?…「赤い色素があるからだよ。青いザリガニさんでも茹でると赤くなる」 ・どんな季節が好き?…「夏が好きだよ。冬は穴を掘ってじっとしている」 ・オス、メスはどこが違うの?…「ハサミも体もオスの方が大きく、色もオスの方が、赤みがかっている」 ・どのくらいの大きさになるの?…「アメリカザリガニは、10cmぐらい、一番大きいオーストラリアのザリガニは、80cmもある」 ・卵、1回に何個産むの?…「1回に400～500個以上産むらしい」 ・脱皮するの?…「ダンゴムシと同じように脱皮する」 ・ハサミはどんな時に使うの?…「水草や餌を切る」「体をきれいにする(ハサミで体をこする)」「すみかを作るとき穴を掘る」「けんかするとき体を大きく見せるために使う」など、 <p>〕</p> <p>・痙攣しているように見えるザリガニの異変に気付き、全園児と保育者が水槽の前に集まる。何が起きているのか全くわからない状況に「ザリガニさん、どうしたの、しっかりして!」「がんばれ!がんばれ!」の大コールが始まる。すると、ザリガニの脱皮が始まり、いりこをくわえたまま脱皮を続けた。この全てを全園児が観察することができた。「これは、脱皮だ!びっくりした!」「すごい力で脱皮しているね」「ひとりで脱皮できるのだね」「殻は、赤くなっているね」「ザリガニさんは、黒色だね」など話題になる。名前が「ダッピ君」になる。</p>	<p>※子どもたちのダンゴムシの飼育・観察において、分からないところは凶鑑等で調べ、互いに情報を共有しながら学び合い探求する姿勢は、今も引き継がれていると感じられた。</p>  <p>♡脱皮の様子を保育者がビデオに記録する。</p>
観察	<ul style="list-style-type: none"> ○ ダッピ君の様子と殻は どうなった? (翌日) …「いりこを食べ、シェルターの中に入ったままでぐったりしてあまり元気がないよ」「きっと疲れたのだね」「ダッピ君の殻は、脱皮した所にそのままだよ」 ○ ダッピ君の様子と殻は そのまま! (2日後) …「殻は昨日と同じところに、まだそのままあるよ」「ダッピ君は餌を食べるようになっていくけど、元気がないよ」 ○ ダッピ君の殻が なくなった! (4日後) …「殻を食べたよ。頭の殻は、食べていないよ。シェルターの中に入れてみただ」「ダッピ君は、隣のシェルターの中で暮らしている」「今日は、だいぶ元気に動き回っているよ」 ○ ダッピ君は 元気になってきたよ! (5日後) …「ダッピ君は、元気に動き回っているよ」子どもは必ず観察し、声かけをしながら教室に入る。降園時も同様に繰り返している。 ○ ダッピ君の体の色が変わってきたよ! (10日後) …子どもたちから「ダッピ君の体の色が、黒色からだんだん赤色になってきた」「今日も元気に動き回っているよ」などと保育者に次々と報告が入ってくる。 	<p>♡保育者は、ダッピ君が頭の殻だけは食べないので、水の汚れを防ぐため水槽から取り出す。</p> <p>※脱皮の様子を観察し、生命の神秘さに驚き、感動したことにより観察意欲が高まり、5歳児だけでなく全園児が声をかけ、飼育・観察をしっかりと続けるようになってきた。</p>

ポイント

捕ったザリガニを全て持ち帰るのではなく、「飼えるのは4匹」と相談して飼育を始めたり、ザリガニの死により生きているザリガニへの思いや興味が深まったりする姿から、命を大切に思う子どもたちの実態や体験が把握できます。こうして道徳性が育まれてザリガニの異変に注目し、意欲的に観察する日々が続き、大切に飼育するためにザリガニの生態を学んでいく姿に結び付きました。